

講 義

訓練5 落水、傷病対応

05-01 落水者発生時の対応方法と陸上との連携

05-02 傷病者発生時の応急対応と陸上との連携



訓練5 落水、傷病対応

訓練の対象者 本項目の訓練対象者は、船長候補、甲板員候補、その他乗組員です。



船長候補



甲板員候補



その他乗組員

訓練の概要 訓練内容は、下記の2つです。

05-01 落水者発生時の対応方法と陸上との連携

05-02 傷病者発生時の応急対応と陸上との連携

訓練の振り返り 訓練が全て終わりましたら、振り返りをしましょう。
理解不足や不安な点があれば指導者に確認しましょう。

05-01 落水者発生時の対応方法と陸上との連携



確認
しよう

落水者発生時の対応方法について確認しましょう。

乗客や乗組員が落水したのを目撃したら、大きな声で落水者が発生したことを伝えます。
一般的な落水者の救助方法は下記の通りです。
なお、事故等発生時としての初動は訓練4と同様です。

■ (1) 落水者発生直後の対応

即座に落水者が落ちた側に舵を切り、落水者からプロペラを離すとともに、クラッチを中立にしてプロペラの回転を止めます。

■ (2) 浮力のあるものを投げ入れる

落水者に救命浮環などの浮力のあるものを投下します。
このとき、昼間であれば自己発煙信号、夜間の場合は自己点火灯など、落水者の位置を視認しやすくなるものを連結して投下します。
また、落水者を見失わないように船長や乗組員が見張りを続けるだけでなく、必要であれば乗客にも助力をお願いし、落水者を見張る人員を増やします。

■ (3) 落水者の救助

落水者への接近は、風や波、潮流など外力の影響を考慮し、可能な限り最短で近づきます。ある程度接近したら、進路が維持できる最低の速度に落とし、落水者に船体をぶつけないよう、救助作業時に行き足がなくなるように操縦します。

また、救助者を収容するときは、プロペラへの巻き込み事故を防ぐため、エンジンを停止し、救助者の体力が弱っていることを考慮して行います。

小型船舶の場合、片舷に荷重がかかりすぎると転覆する危険性があるため、落水者を救助する際はバランスに注意するようにしましょう。

■ (4) 救助後の処置

1. 意識の有無を確認します。
2. 外傷の有無を確認します。
3. 意識がない場合は、気道を確保し、呼吸の有無を胸の動きや呼吸音、吐息で確認します。
4. 呼吸や心拍が止まっている場合は、胸骨圧迫(心肺蘇生)など救命処置を行います。
5. 呼吸がある場合は、嘔吐・窒息に注意し、意識不明者を横向きにして経過を観察します。
6. 毛布等があれば保温に努め、出来るだけ濡れた衣服を脱がせるようにします。

■ (5) 陸上への連絡

落水者を救助後は、出来るだけ早く陸上に向かい、医療機関へ連携します。

無線通信機器などを使用し、陸上側の要員と連絡を取り、上陸地点で医師や救急車に待機してもらうなどの手配をすると良いでしょう。



記録
しよう

05-01 落水者発生時の対応方法と陸上との連携の訓練内容を記録しよう。

■ 落水者発生時の対応方法について確認しましょう。

例) 落水者の救助方法の確認、陸上との連携で注意すべき点、など

これで訓練05-01は終了です。

05-02 傷病者発生時の応急対応と陸上との連携



確認
しよう

傷病者発生時の対応方法について確認しましょう。

乗客や乗組員の中で傷病者が発生したら、まず周囲の状況を把握することが大切です。二次災害の危険があるときは、その危険を排除してから傷病者の対応を開始します。仮に二次災害の危険を排除できない場合は、その危険を排除できる専門機関への通報が必要です。すぐに救助を呼びましょう。

※想定される二次災害と危険排除の例
機関のトラブルがあり、船舶が運航を停止した。機関のトラブルを確認するために乗組員が機関室内入ったところ、乗組員が昏倒した。
→機関室内で乗組員が昏倒した理由が明らかであり、それを排除できるかを確認してから救助に向かう。

二次災害の危険を排除できた場合の一般的な傷病者の対応方法は下記の通りです。

■ (1) 傷病者の状況の確認

傷病者の状況を確認します。

以下のただちに手当・通報すべき傷病者であるかどうかを判断します。

- | | | |
|-------|--------|-----|
| ○意識障害 | ○心停止 | ○中毒 |
| ○気道閉塞 | ○大出血 | |
| ○呼吸停止 | ○ひどい熱傷 | |

これらの傷病者は、発見した者が直ちに手当をしないと生命に関わります。ただちに協力者をもとめて救助要請やAED、手当てを開始します。

参考：日本赤十字社 傷病者の観察より

■ (2) 陸上への連絡

傷病者の応急手当後は、出来るだけ早く陸上に向かい、医療機関へ連携します。無線通信機器などを使用し、陸上側の要員と連絡を取り、上陸地点で医師や救急車に待機してもらうなどの手配をすると良いでしょう。



確認
しよう

救急箱の中身・場所を確認しよう。

軽傷者が発生したときに対応するため、船内にて保管している救急箱の位置と中身について確認しておきましょう。
また、救急箱の管理者と各医薬品等の期限についても併せて確認しておきましょう。



もう一步
知りたい

応急手当の方法を知りたい。

■ 応急手当WEB講習(総務省消防庁)HPより、動画で方法を確認しましょう。

総務省消防庁では、「一般市民向け応急手当WEB講習」として、各種救命講習の内容、個別の動画が閲覧できます。

個別動画閲覧の中には、「応急手当について知りたい」「心配蘇生の実施方法について知りたい」「怪我をしてしまったときの対応を知りたい」「色々な応急手当について知りたい」と言ったカテゴリーごとに動画を見ることができます。



動画「胸骨圧迫」より

「一般市民向け応急手当WEB講習」動画
「胸骨圧迫」を加工して作成

一般市民向け応急手当WEB講習

<https://www.fdma.go.jp/relocation/kyukyukikaku/oukyu/index.html>



■ 心肺蘇生の流れとAED(自動体外式除細動器)の使用方法を確認しましょう。

■ 心肺蘇生の流れ

(1)周囲の安全を確認する。

「皆さん！離れてください！道を開けてください！」

(2)傷病者に近づき、反応(意識)を確認する。

傷病者に顔を近づけ耳元近くで大きな声で呼びかける

「もしもーし、もしもーし、聞こえていますか？声は出せますか？手は握れますか？」

(3)傷病者に反応がなければ、大声で叫び応援を呼ぶ。

(周りに向かって)

「皆さん、助けてください！その男性の方、船の〇〇へ行って、AEDを持ってきてください」

「隣の女性の方！船長の元に行き、陸上に救助の連絡を取るようにってください」

(4)呼吸を見る。

胸とお腹の動きを見て「普段通りの呼吸」をしているか、10秒以内で確認する。

(しばらく確認)

「呼吸確認…、呼吸無し！」

(5)胸骨圧迫を30回。

心肺蘇生(胸部圧迫)を開始する。

「イチ！ニ！サン！シ！…ニジュウ！サンジュウ！」

(6)人工呼吸2回。

(人工呼吸を行うことが出来なければ、省略可能)

(7)胸骨圧迫30回。

「イチ！ニ！サン！シ！…ニジュウ！サンジュウ！」

(8)胸部圧迫、人工呼吸((6)及び(7))を絶え間なく続ける



AED使用の流れ

(1)電源を入れる。

※ふたを開けると、自動的に電源が入るタイプのAEDもあります。

(2)パッドを貼る。

パッドを貼る場所は、パッドに図で表示されているので、図のとおり傷病者に貼り付けます。

貼り付けるときは、下記に気を付けましょう。

- ・ 皮膚が濡れていないか？(濡れていたらふき取りましょう)
- ・ 貼り薬が貼られていないか？(貼られていれば剥がしましょう)
- ・ 心臓ペースメーカーなどが埋め込まれていないか？(胸に硬いこぶのようなでっぱりがある場合は、そこを避けましょう)

(3)コネクターを指定された場所に差し込む。

AEDが心電図を解析し、電気ショックが必要な場合は、自動的に充電します。

(4)放電ボタンを押す。

充電が完了すると、音声メッセージで次の行動を指示します。

「放電してください」などのメッセージが流れたら放電ボタンを押しましょう。

このとき、必ず自分と周りの人は傷病者から離れ、触れないようにしましょう。

電気ショック実施後は、直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開してください。



※心肺蘇生の流れ及びAED使用の流れについては、「政府広報オンライン(いざというときのために 応急手当の知識と技術を身につけておきましょう)」を参考にしています。



記録
しよう

05-02 傷病者発生時の応急対応と陸上との連携訓練内容を記録しよう。

傷病者発生時の対応方法について確認しましょう。

例) 傷病者発生時の応急方法の確認、陸上との連携で注意すべき点、など

これで訓練05-02は終了です。